

大田原市史編さん基本方針

1 過去の市町村史誌の発行状況

(市町村史誌名)	(発行時期)	(事務局)
大田原市史 前編	昭和50年 3月	
後編	昭和57年 12月	教育委員会社会教育課
史料編	昭和60年 3月	教育委員会社会教育課
湯津上村誌	昭和54年 3月	教育委員会教育課
黒羽町誌	昭和57年 6月	総務課

2 趣旨

今回の大田原市史編さん事業は、市制施行70周年に向けた事業の一環として取り組むものである。前回の編さん事業により刊行された前記1の旧市町村史誌を補完するものとして、昭和29(1954)年の旧大田原市誕生から市制施行70周年となる令和6(2024)年に至るまでの本市の70年間の歩みについて、現代編及び資料集を刊行することで明らかにするものである。

3 目的

前回の旧市町村史誌編さん事業の成果を踏まえ、新たに現在までの歩みを加え、書籍等として刊行・公開することで、市民の本市への理解と愛着を深め、誇りを育て、本市の将来のまちづくりや市民生活に役立てるための契機とする。

4 事業期間

市史編さんの事業期間は、令和元(2019)年度に市史編さん委員会を設置して調査・研究に着手し、市制施行70周年となる令和6(2024)年度に刊行を完了させることを目標とする。

5 刊行物の構成

(1) 刊行物の体裁

活用しやすい体裁で書籍として刊行し、有償で頒布する。併せて電子データ等によるWeb上での公開についても検討する。

(2) 刊行物の内容

①現代編「大田原市制70年の歩み」(仮称)

- ・現代編は、旧大田原市が誕生した昭和29(1954)年から市制施行70周年となる令和6(2024)年までの本市の70年間の歩みを扱う。
- ・市民にとって親しみやすく、また、理解しやすくなるよう、写真図版を数多く挿入しながら、年表や各年の主な出来事などを整理し、掲載する。

②資料集

- ・資料集は、旧市町村史誌で十分に取り扱われなかった自然や民俗の分野を中心に、聞き取り調査や現地調査を踏まえて記録、整理し、現代編を補完する記録集として刊行する。
- ・資料集の刊行は、次の3冊を基本とする。
 - 1)「大田原市の自然」(現代に生息する動植物等の記録集)
 - 2)「大田原市の民俗」(現代に伝わる民俗の記録集)
 - 3)「大田原市の郷土誌」(旧町村単位の郷土誌の翻刻集)

③研究集

- ・研究集は、市史編さん事業による調査研究の成果を速報として公開するため、年1冊刊行する。

6 編さん体制

(1) 編さん委員会

- ・専門知識を有する学識経験者(現代・自然・民俗)のほか、市民の代表者、関係機関・団体代表者、関係部署の職員等で構成する。
- ・委員会は教育委員会の諮問に応じ、市史編さん事業に係る重要事項について調査・審議し答申する。

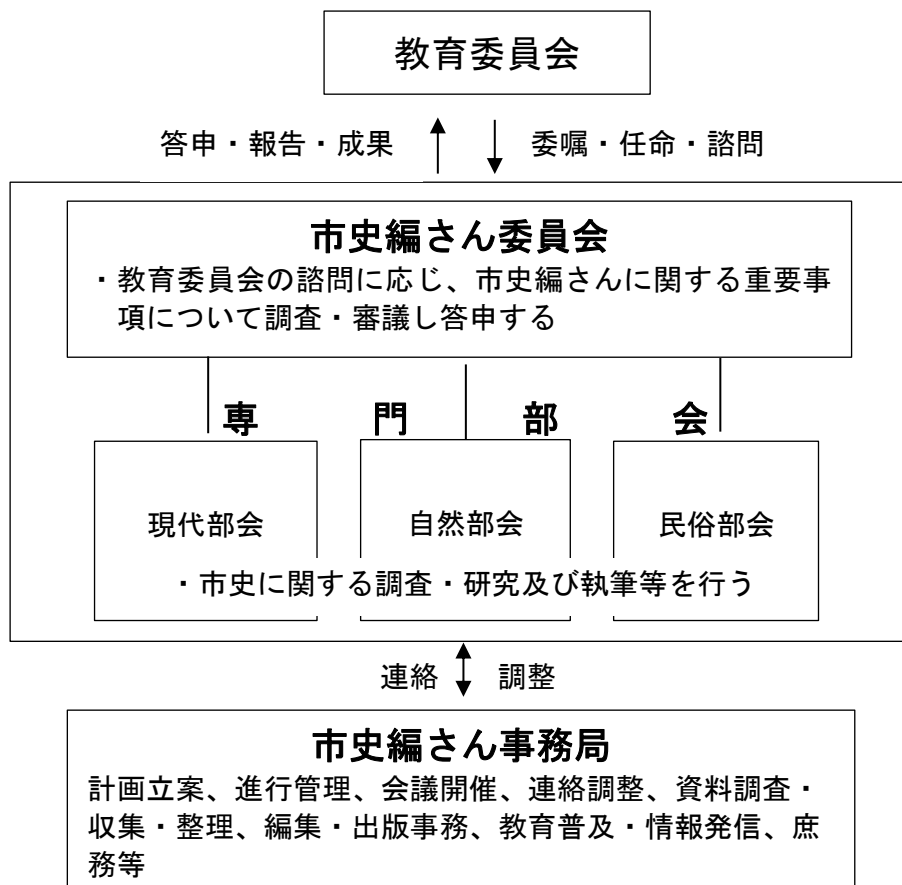
(2) 専門部会

- ・編さん委員会の中に、専門部会として現代・自然・民俗の3部会を置き、それぞれ学識経験を中心に構成する。
- ・専門部会の部会員は、年次計画に従い市史の内容について調査・研究及び執筆等を行う。

(3) 事務局

- ・事務局を教育委員会事務局教育部文化振興課に設ける。
- ・事務局は、次の事務を所掌する。
 - 事業計画の立案、進行管理
 - 委員会等の開催及び議事録の作成
 - 委員・他機関・関係団体との連絡調整
 - 委員・関係部署と連携しての調査・資料収集・整理・執筆
 - 刊行物の編集及び印刷校正・出版
 - その他情報発信や教育普及、庶務・経理等

編さん体制のイメージ



7 事業スケジュール（主な予定）

- 令和元（2019）年度 市史編さん委員会の設置・会議の開催
・資料の収集・調査・分析 ※市史編さん終了まで
- 令和2（2020）年度 【合併15周年】
資料集「大田原市の郷土誌」の発行
- 令和4（2022）年度 資料集「大田原市の自然」の発行
- 令和5（2023）年度 資料集「大田原市の民俗」の発行
- 令和6（2024）年度 【市制施行70周年】
現代編の発行

8 市史編さん総事業費

市史編さん事業の完了までに係る総事業費は、50,000千円を限度とする。